

F Pの活動現場から

～保険相談サイトの草分け的存在として見てきた10年～

保険相談サイト「保険マンモス」で無料相談サービスを開始して10年を迎えた。今では月に100万人が訪問し4,000件を超える問い合わせを頂くサイトに成長したが、立ち上げ時は実に見通しのつかない事業であった。

近年保険ショップも多数出店され「保険相談」がある程度普及し、お客様が「自ら保険の問い合わせ」をすることが当たり前になった。

しかし、10年前には自ら問い合わせをしてきたお客様は「何らかの理由で保険に入れない人」というのが販売者側(生保FP)の印象であった。



相談サイトを立ち上げて、まず相談申込があるのか。

あったとして、保険に加入できる人からの問い合わせになるのか不安であった。サイト運営は登録FPからの広告料で成り立っている。FPは一定以上の確率で保険契約になることが必要となるのだ。

この難しい立ち上げ時に協力してくれたのがキーストーンアライアンスのFP達であった。全国で発生する問い合わせに誠実に対応し相談内容をフィードバックしてくれたのである。そこを原点として発展できたのである。

さて、普及した「保険相談」だがその品質はどうだろうか。お客様にとって相談を実りあるものとするには、FPとしての知識とさらに「相談の実務経験」に裏付けされた深い知恵が必要なのである。急成長している保険ショップでは、わずか半年の研修を終えたばかりというような販売員も散見されるが、キーストーンアライアンスで仲間と切磋琢磨していた身とすると違和感を禁じ得ないのである。

保険相談の次の発展ステージは、保険相談の品質、つまり「FPのサービス品質」が問われる時代になると確信し、また新たな発信をするべく日々業務運営している次第である。



プロフィール



キーストーンアライアンスメンバー(東京)
保険マンモス株式会社
代表取締役 古川 徹

1964年滋賀県生まれ。早稲田大学商学部卒業。
在学中にロックバンド、聖飢魔II(CDデビュー前)に在籍するも半年で脱退。87年大学卒業と同時に旭化成(株)へ入社。
95年ソニー生命保険(株)に転職。
2005年に保険マンモス(株)を設立。同社が運営する保険情報ポータルサイト「保険マンモス」は、約4年の間に月間100万人ほどの訪問者がアクセスするまでに成長。
著書に「保険は三角にしない!!」「アナタの保険、見直せば500万円安くなる」。その他雑誌や新聞、ラジオ等のメディアにも多数登場

頑張る子どもやママ達を応援する存在になる!



～北見のおかんの代表 田村淑江、市議員当選!!まあ、色々ありました・・・～



選挙中、右肘骨折。
骨折しても心折れず

今年3月、北見市議会議員選挙に当選させて頂きましたが、2度目のチャレンジでした。

4年前は43票差の次点で落選。直後の落ち込みは酷く、出がりの私が娘達から食事に誘われても「あの落選した人だ」と言われたら嫌だから行かない」なんて応えていました。そんなこともあり、今回の立候補はずっと悩んでいました。逃げていました。落選から1年後、夫が悪性リンパ腫と宣告を受け、私なりに調べた結果、食事療法に辿り着き、玄米菜食で健康状態になりダイエットにも成功。その体験を伝えるセミナーを主催したら、北見の焼き肉を盛り上げる北見ニクマチの町長になったり、仲間と肉もちを開発したら商標登録が通ったり。やりたい事をやっていたら、昨年12月になっていました。

それでもやっぱり悩んでいました。「自分がやる事なのか? 私が出来るのか?」

決断は、私が師と仰ぐ中村文昭氏の講演会を北見で開催し、講演を聞いた時。中村氏は北海道で引きこもりニートを集め農業塾を主催しています。そこで子供達のお世話をしているのが脳性小児まひの真理さん。大人になる迄生きられないと言われた彼女が、大分から北海道にやってきて10年。不自由な手で愛情を込めた手作りの食事で子ども達が元気になって行きます。一生懸命全力で生きています。

真理さんに恥じない生き方をしたい!と心から思いました。言い訳しか言わずに、逃げていた私、恥ずかしさでいっぱいでした。コネ無し金無し地盤無しでしたが、始まってみると同級生や町内会の皆様、ニクマチで仲良くなった方がボランティアで支えて下さり、所属している様々な女性団体の諸先輩からも応援して頂きました。

同じ選挙運動でしたが4年前は本当に辛かった。人の目を気にして、自分らしくなくて、駄目出しばかりされていました。今回は、自分らしくやる!と決め、駆け抜けました。とにかく楽しかった!自分次第で全てが変わると実感致しました。

与党の最大会派の一員にありますが、全て年上の男性ばかり、保守系の女性議員は北見初。このおじさん達の世界に馴染んではいけないと思っております。次世代に、女性の感性を生かした町作りをする為におばちゃんは頑張ります。

北見市議会議員 田村 淑江(タムラトシエ)



右端はキーストーンアライアンスメンバー田村友朗(夫です)。夫と娘達、支えてくれた家族には心から感謝です



司法書士のオシゴト

～日経新聞電子版で大人気コラム連載中の川原田慶太氏がわかりやすく解説!～

キーストーンアライアンスが現在積極的に取り組んでいるのが「相続」。

唯一絶対の解のないこのテーマにおいて重要なポイントとは何か？

それは税務や法務等、それぞれの分野において経験値が豊かなプロフェッショナルとの連携だと考えています。

そこで今回、皆様にとって身近な問題を扱っている法務のプロ「司法書士」を取り上げてみました。

キーストーンアライアンス代表石野が川原田氏と長年にわたりお付き合いいただいている関係で実現したこの企画。

ご自分の将来を思い浮かべてお読みいただくと、司法書士に対する心理的ハードルがぐっと下がるかも…



皆様はじめまして。司法書士の川原田慶太です。

今回は司法書士がどんな仕事をしているのか、簡単にその一部をご紹介しますと思います。

「個人が持っている資産の権利を、安心できる形で守る」

……実はこのことが、司法書士が行う仕事のかなり大きな部分を占めています。

たとえばみなさんが、近所の土地を購入したとしましょう。その土地の「オーナーが変わった」ということは、実際にお金のやりとりをした当事者にはすぐ分かることでしょう。

でも、当事者だけ知っていても、それがほかの人に見えない状態では問題が出てしまう可能性があります。そのままでは、周囲の人はみなさんのことを新オーナーだとは認めてくれないかもしれません。権利としては、非常に不安定になってしまいますね。ですから、きちんと手続きをとって名義が変わったことを届け出しておき、誰からでも分かる形にすることで安全に守っていくわけです。

相続のときも同じです。司法書士がお手伝いすることで、代替わりしたことを届け出す手続きがスムーズに進み、引き継いだ資産について安心な状態を保つことができます。その延長線上で、将来の資産トラブルを予防することも得意分野のひとつです。あらかじめ遺言書を作ったり、信託の契約を結んだりして、未来に備えていくことのお手伝いですね。そのほかにも、判断力の弱まってきた高齢者のかたの資産を、安全な形で管理して守っていくこと（後見制度の利用支援）も大切な仕事のひとつです。このように、「個人の資産を守る」ための手続きの専門家が司法書士なのです。

相続の現場に触れる機会の多い専門職ということで、相続をテーマにした講演や執筆の依頼なども多く頂戴することがあります。私の場合は、日本経済新聞電子版で毎週金曜日に「司法書士が見た 相続トラブル百科」という連載コラムを持つご縁がありました。

ちょっとした裏話ですが、実は連載当初は約半年ほどで終わる予定の短命な企画でした。ところが折からの相続関連情報のブームもあり、「週間読まれた記事ランキング」の第1位を獲得するなど、予想以上の注目をいただける結果が待っていました。おかげさまで連載は3年目を迎え、通算回数も120回を超えることができています。

この連載から、特に大きな反響をいただいたものが選ばれて『司法書士が見た! 実録相続トラブル』として先日新書化されました。イメージしやすい事例も豊富に交えながらご紹介していますので、「個人の資産を守る」ための何かのヒントになることもあるかもしれません。もし機会があれば、ぜひお手にとっていただければ幸いです。

著書



相続にまつわるさまざまなトラブルとその対処法を、「現場の生の情報」に基づいて解説しています。

第1章	「知らなかった」が命取り ～思い込みが招く非常事態～
第2章	相続は時代を映す ～21世紀日本型トラブルの実態～
第3章	相続増税時代の到来 ～トラブルは避けられるか～
第4章	親の心子知らず ～親子間トラブルの悲哀～
第5章	兄弟は他人の始まり ～相続が「争族」にかわるとき～
第6章	相続トラブルに備える ～「予想外の事態」への処方箋～
第7章	相続そのとき ～まだあるトラブルの芽～



ラフォーレ 司法書士法人おおさか法務事務所
代表社員 川原田 慶太

京都大学法学部卒。在学中に司法書士試験合格。
大阪市、八尾市、西宮市に拠点をもつ司法書士法人
おおさか法務事務所、代表社員。遺産相続や資産運用などのセミナー講師を数多く務める。
現在、日本経済新聞電子版にてコラム、「司法書士が見た相続トラブル百科」連載中。
著書に「司法書士が見た! 実録相続トラブル」(日本経済新聞出版社)

FP的視点で人生設計を考える

～経験に裏付けられた税務・法務の専門家を味方につける～

FPという仕事をしていて、最近つくづく思うことがあります。

ライフステージの様々な場面で、税務や法務などの専門領域の知識や経験を持った人たちとつながっているかどうかで、人生上の収支が桁違いで変わってしまうことがあるということです。

たとえば、税金。特に相続を考えるときなどは、有効な対策の有無によって、相続税額で数百万円、場合によっては数千万円単位でかわることも大いにあり得ます。そこで大切なのが、相続相談をするのどの税理士にお願いすればいいかということ。税務はどんな税理士でもひと通りのことはできると思われがちですが、実はそうではありません。こと相続に関しては、相続案件を数多く手掛けている税理士にお願いすべきです。専門知識もしくは専門技術を有する人の仕事の成果を推し量ろうとすれば、経験値が圧倒的にものを言います。

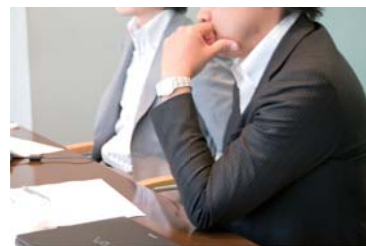
これは、法律の専門家についても同じ。前頁でご紹介した司法書士の仕事について、今まであまりなじみがなかった方も多いと思いますが、高齢化が確実に進む状況のなかで、成年後見人制度や遺言書の作成、

遺産分割や不動産の権利に関するトラブルなど、法律を押しえたくらうで、適切にアドバイスがもらえる専門家の

存在はこれからとても重要になってきます。法律の専門家というと、弁護士とイメージが先に立つと思いますが、法務上のトラブルで揉めごとにならないように事前相談するのが司法書士、揉めて法廷で争うような状況で依頼するのが弁護士というように考えるとわかりやすいかも知れません。(両者の専門領域を明確に線引きするのは難しいのですが)

税務や法務の問題というのは、往々にしてある日突然にわかに必要性を感じる人が多いもの。そんな時に我々FPの存在を思い出していただければ幸いです。状況に応じて、税務・法務をはじめとする経験値を持った各種の専門家をご紹介する努力は惜しみませんので。

(文責:石野)



キーストーンアライアンス **新**メンバー紹介 ～沖縄編～

高橋FP事務所 代表 高橋 賢二郎

Q1: 信念

好きな言葉に「処事公明」という言葉があります。プロとしてクライアントの利益の最大化を目指すなかで、公明正大に仕事をして、且つその仕事に社会に役立って始めて意味がある、と思っています。



Q2: 最近感動したこと

高校生向けに学校で金融講演会を数多くしています。ある店で食事をした際、従業員の女性に話しかけられ、「高橋さんの講演会を聞いて、私絶対正社員になるぞとって仕事頑張っているんですよ!」と言われた時は感激しました。

Q3: 自慢のスキル

プロとしてバランス能力はとても大事です。どういう人が相談に来て、相手に併せて気持ち良く能動的に話をして貰えるべく導いていくコミュニケーションスキルがコンサルティングでは特に大事だと思っています。



会社情報

高橋FP事務所

住所: 〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2-29-6
電話番号: 098-943-0205 FAX番号: 098-943-0204
E-Mail: kenjiro_takahashi@holos.jp

メッセージ

小生は以前、商社に勤務していましたが、アメリカで石垣島出身の妻と出会い、12年前に沖縄へ移住を決意、7年前より「高橋FP事務所」というライフプランニングを専門にする独立事務所を立ち上げました。(1)打合せは事務所に来て貰う、(2)夫婦で来てくれない際にはお断りする、(3)源泉徴収票、住宅ローン明細、年金特別便などの資料を必ず持参して貰う、(4)「高橋FP事務所通信」を定期的にメール配信してアフターフォローをしっかりと、というスタイルで徹底的にライフプランニングをしている事が、クライアントとの深い関係、信頼に繋がっていると思っています。

FP業は私にとって「天職」。「天職」に出会った限り、とことんこの仕事をやるしかないでしょー!!ですね。

